

ティーチング・ポートフォリオ

健康科学大学 健康科学部 人間コミュニケーション学科

教授 升 佑二郎

1. 教育の責任

より良い教育を行うためには、偏った物事の考え方ではなく、様々な立場の人達の考え方を理解できる教養の広さが重要だと考えます。多様な活動に積極的に携わり、その経験から得られる知識を獲得するとともに、多様な人々との交流を通して考え方を養っていきます。日々の教育活動を通して教育力を培い、社会で活躍できる人材を育成することができる魅力的な授業を展開していけるように自己研鑽に努めています。

2023 年度

科目名	時期		受講者
コミュニケーションプロジェクト HC-3	2 年/3 年/4 年後期	選択	5 名
スポーツの理論と実際	1 年/2 年/3 年後期	選択	52 名
スポーツの理論と実際	1 年/2 年/3 年後期	選択	21 名
健康運動の実践	2 年後期	選択	32 名
統計学	1 年後期	必修/選択	50 名
統計学	1 年後期	必修/選択	51 名
統計学	1 年後期	必修/選択	62 名
教育原理	1 年後期	選択	45 名
情報リテラシー	1 年前期	必修	123 名
情報リテラシー	1 年前期	必修	62 名

2024 年度

科目名	時期		受講者
基礎演習Ⅰ	1 年前期	必修	13 名
基礎演習Ⅱ	1 年後期	必修	13 名
コミュニケーションプロジェクト HC-3	2 年/3 年/4 年後期	選択	10 名
スポーツの理論と実際	1 年/2 年/3 年前期	選択	17 名
スポーツの理論と実際	1 年/2 年/3 年後期	選択	52 名
健康運動の実践	2 年後期	選択	41 名
統計学	1 年後期	必修/選択	39 名
統計学	1 年後期	必修/選択	51 名
統計学	1 年後期	必修/選択	62 名
教育原理	1 年後期	選択	64 名

情報リテラシー	1 年前期	必修	105 名
情報リテラシー	1 年前期	必修	62 名

・授業外活動

本学での授業の他に、以下のような活動をしている。

- 1) 日本バドミントン協会 普及指導部 委員
- 2) 全日本学生バドミントン連盟 代議員
- 3) 関東学生バドミントン連盟 副会長
- 4) 神奈川県小学生バドミントン連盟 理事長
- 5) 日本スポーツリハビリテーション学会 理事
- 6) バドミントンサークル 顧問
- 7) 健康科学大学 IR オフィス担当委員

1-6) の活動から、スポーツ指導に携わる中で得られる実践知が獲得され、スポーツ系の講義において有益な情報が提供できている。

7) の活動を通して、情報リテラシーや統計学といったコンピュータを使ったデータ分析に関するスキルが高まり、講義に活かされている。

2. 教育の理念・目的

本学は、様々な総合的問題に立ち向かうことができる問題解決能力を備えた人材を養成するため、「豊かな人間力」、「専門的な知識、技術力」、「開かれた共創力」の三つの教育目標を掲げている。

1) 豊かな人間力を有する人材育成

多種多様な考え方を有する人と人が協力して営む社会において、他者の考えを理解し、適切な言動、行動をとることが求められる。チーム医療の重要性が指摘されているように分野横断的に関わりを持つことで、より良い成果を上げることができる。多様な人材が協力して業務を遂行していくためには豊かな人間力の獲得が必須となる。豊かな人間力は、様々な経験や学習を通して得られる教養から涵養される。担当講義を通して、教養に関わる知識をわかりやすく、興味を持ってもらえるように伝えていく。

2) 情報化社会において活躍できる人材育成

日進月歩のごとく進化する情報化社会において、IT スキルの獲得は全ての学生に求められる重要な技術・知識である。実社会で必要となる知識を情報リテラシーおよび統計学を通して講義する。

3. 教育の方法

教育の機会については、講義だけでなく、学内外の活動も含めて、あらゆる形式で展開していくことが可能である。講義時のみならず講義時間外での対話を通して教養を育むことに努める。

- ・問題解決型授業

スポーツの理論と実際においては、運動能力の優劣に関わらず、参加者全員がスポーツを楽しみ、参加できるようにルール作りを考えさせている。情報リテラシー、統計学、教育原理においても課題を設定し、回答して過程を通して問題解決能力を養っている。

- ・現場に即した実践的授業

実社会で必要となるコンピュータスキルを実際に演習形式で教えることで、スキルの獲得に繋げている。体験させることで学びも深まり、できなかったことができるようになることで学習の楽しさを味わうことができる。

- ・Teams を活用した授業の工夫

情報リテラシー、統計学は、エクセルやプログラミングに関する IT スキルを講義する。Teams にて講義内容を録画することで、理解できなかった部分を授業時間外に復習することができる。そのためコンピュータ操作に不得意な学生も自身のペースで学習することができ、理解を促すことができる。

4. 教育の成果・評価

FD 委員会によって実施されている授業評価アンケートを活用して、授業内容の反省点を振り返り、改善に活かすことができる。また、実際の授業内容についても、項目毎に分析を行い、コメントの内容とともに、次年度のシラバスや授業内容に活かしている。

- ・スポーツの理論と実際

全体的に高い満足度が得られている。より良い授業が展開できるように、スポーツ種目や講義内容をさらに工夫し、多くの学生に興味関心を持たせることができるように努めている。

- ・統計学

オンラインで行うことで講義内容の録画を見返すことができ、難しい内容ではあるが各々のペースで課題に取り組むことができている。進捗状況を考慮して説明する内容を選定し、わかりやすい授業を展開できるように心がけ、全体的に高い評価が得られている。

5. 今後の目標

短期目標：授業評価内容の改善、研究活動および課外活動の充実

授業評価アンケートの内容を基に、より良い授業が展開していけるように改善していく。研修会等にも積極的に参加し、実践的な実りある内容を伝えられるに自己研鑽に努める。日進月歩のごとく発展するスポーツ科学から得られる新しい知識や様々なデータが数値で可視化される現代において、先進的なコーチングスキルを獲得していこうとする学びの姿勢を大切にし、研究活動を行っていく。

日本バドミントン協会事業委員会普及指導部員を務め、コーチ養成講習会、全国巡回バドミントン講習会の講師を担当し、科学的理論に基づくバドミンントンの指導法について講義を行っている。バドミントンは老若男女、多くの年代の方々が楽しめる魅力あるスポーツである。今後もバドミンントンの普及、発展に関わる活動に携わっていきたいと考える。

長期目標：社会で活躍できる人材育成

「豊かな人間力」、「専門的な知識、技術力」、「開かれた共創力」を兼ね備えた社会で活躍できる人材育成に貢献できる教員になれるように、日々の積み重ねを大切に自己研鑽に努めていく。